土砂災害から命を守るために

足羽第一中学校　二年　作り　粋（すい）　さくがわ

土砂災害とは、山や崖が崩れたり崩れた土砂が雨水やいの水と混じって流れてきたりすることによって人命が奪われたり建物を押しつぶしたりする災害のことである。

国土交通省によると、二〇十三年から二〇二〇年の平均土砂災害発生件数は年間千五百八十八年にもおよんでいる。被害が大きくなる土砂災害とは主に大雨による水害ともなうものが多い。近年では平成三十年七月豪雨や令和元年東日本台風・低気圧、福井においては令和四年八月豪雨が起きた。この令和四年八月豪雨により南越前町を主に激しい雨が降り続き線状降水帯が発生した。家屋・田畑が浸水したり、提防の水があふれたりと被害が大きかった。私の地域では被害は無かった域があったと考えると恐怖でいっぱいだ。そが同じ県で、このような被害が起きている地で私は、被災地に行って支援を行った父に

20×20

話を聞くことにした。

この災害では高齢化率が高い地域に被害が大きくなる特徴があったそうだ。このような人たちや、足が不自由であったり障害がある人などに配慮が必要な人たちが避難所に行きたくても行けず、取り残されてしまうという問題が起きた。東日本大震災でも同じようなデータがある。東日本大震災で亡くなってしまった六割のかたはこのような要配慮者である。私はこのようなことから一人でも命を守るために地域の人たちと普段から支え合う必要があると思う。普段の地域の行事や自治会たちの活動、防災訓練に多くの人たちが積極的に参加して地域の人たちの顔を知ったり、話してみたりしてつながりをもつことが大切である。近年ではコロナウイルスの影響で地域の人たちの付き合いが薄くなり、助かる命が助からなくなったりしたそうだ。「めんどくさいから参加しない。」という考えではなく、もう一度今までにあった災害などを思い返して

地域行事などを行う意味を考え直すことも一つの防止対策だと思う。災害が起こった時だけに地域の人たちとつながりがあればいいのではない。復興していく時に周りの支援が無くなり、孤立化して亡くなってしまう、つまり災害関連死が起こってしまうという可能性もある。このようなことを防いでいくためにそういった人たちを見守れるような地域づくりが必要である。そのために定期的に地域の人たちと集まって、元気かどうか、悩み事はないかなど気軽に話せるような場をたくさんつくっていくべきだと私は思った。このような活動は最近増えてきている。

今年の一月一日、たくさんの人たちが帰省している中、災害が起きた。それは令和六年能登半島地震である。誰も思いかけていないような日に最大震度七である地震を観測した。大きなゆれで土砂崩れが起き、道路がふさがれたり住宅が流失する被害が出た。地震が起きて何日か後の時、私はボランティアと

して実際に被災地に行った。途中の道で、道路に土砂が流れてきたり、山の木が倒れてきて、道路をふさいでいる状態だった。そのため食料や毛布など生活に必要な物を送ることができないという日も何日か続いた。私はこのようなことが起きて家にある非難バックを定期的に確認することが大切だと、改めて思った。家族でルールも決めた方がいいと思った。一人一人個人で避難できればいいのではなく全員まとまることで助からない命も助かる命に変わるかもしれない。今回の災害で、今もずっと家を失っている人が多くいる。そんな中少しでも楽しいことができるように、最近はイベントを行っている。定期的にイベントを行うことで少しでも被災地の人たちが笑顔になれると良いと思う。

土砂災害とはいつどこで起きるかは分からない。私たちがどうにかして止めることもできない。災害が起きた時や日頃の生活から、大切にしてほしいことは一人とのつながりし

である。避難する時、多くの人たちと支え合うから命が助かる。だから日頃の地域行事、自治会たちの活動には積極的に参加する必要がある。この日々の一つ一つに、命が助かるか助からないかがかかっている。なのにつめんどくさいから参加しないしなんて言っていいのだろうか。私はこれから、地域の行事にはできるだけ参加し、地域のんたちとつながりを作っていきたいと思う。一つでも大切な命を守るために地域全体でまとまっていきたい。

20×20